

# 男性メイクが魅力や違和感に与える心理効果とその性差

中上 翔太

近年は男性の美意識の高まりが著しく、身だしなみの一環としての男性用化粧品に対する社会的関心が高まっている。K-POP ブームなどが拍車をかけ、その領域はスキンケアをはじめとした基礎化粧品にとどまらず、ベースメイクやアイブロウなどのメイクアップを施す男性もいるほどである。しかしながらメイクと顔魅力に関する研究はほとんどが女性顔を対象として行われており、男性顔に言及したものはほとんど存在しない。また、男性メイクが広まりつつあるとはいえ、メイク経験が男女で異なることは言うまでもなく、それを考慮に入れた上で、評価者の性別による男性メイクの効果検証をした研究は存在しない。これらから、知覚心理学の実験によって、男性メイクが魅力に及ぼす心理効果とその性差を検証することを本研究の目的とした。

実験Ⅰではノーメイク、ファンデーション、アイメイク、口紅、眉メイク、ノーズシャドウ、フルメイクの7条件の男性刺激に対する魅力度評価を比較し、相対的距離を算出した。その結果、化粧をしている全ての条件において、ノーメイク条件よりも魅力度が高く評価され、男性もメイクをすることで魅力度が高まる可能性が示唆された。

実験Ⅱではノーメイク、ナチュラルメイク(2種)、ヘビーメイクの4刺激に対して、外見的魅力項目と内面的魅力項目がどの程度当てはまるか質問し、7段階(1:全く当てはまらない～7:非常に当てはまる)で評価させることでメイク濃度と評価者性別の効果を検証した。結果、外見的魅力項目である「魅力的な」「洗練された」において、男性メイクが外見的魅力を高める効果をもたらすことが示され、男性顔においてもメイクで女性らしい特徴(大きな目、ふっくらした唇など)を強調させることで、外見的魅力にポジティブな効果を及ぼす可能性が示唆された。また「魅力的な」および「洗練された」において、ヘビーメイクよりもナチュラルメイクの外見的魅力が高くなること、「信用できる」および「有能な」において、ヘビーメイクよりもナチュラルメイクの外見的魅力が高くなることから、男性顔においてもナチュラルメイクが好ましい可能性が示された。このことから男性顔においても女性顔と同様に、ナチュラルメイクよりもヘビーメイクで目の過大錯視が弱まり、魅力に寄与する要因が弱められた可能性、さらにはヘビーメイクで社会的異物排除作用が働いた可能性が示唆された。しかしながら内面的魅力においては、ノーメイクが他の水準よりも有意に高魅力だと評価され、男性メイクによるポジティブな効果が見られなかった。したがって内面的な他者評価を特に気にしなければならない場面(接客、営業、面接など)では、よりナチュラルに仕上げるなどの工夫が必要だ。一方で「色っぽい」においてノーメイク<ナチュラルメイク<ヘビーメイクであったことから、恋愛関係、性的関係などでの「美的魅力」を増したい場面では、ヘビーメイクに仕上げるのも良いだろう。最後に性差については、「洗練された」でのみ性別の効果が見られ(男性評価者>女性評価者)、男性メイクへの魅力評価に性差があることが示された。これについては、メイクを日常的に行っている女性でより細部まで注意が向き、ヘビーメイクに対する違和感を男性よりも強く感じた可能性が考えられる。以上より、置かれている状況や関わる相手の立場、性別等を考慮しながら、男性メイクを有効活用していくことが好ましいと言える。(基礎心理学)